



中小企業におけるリスクマネジメントの進め方

リスクには、自然災害のように損害のみが発生する負のイメージがあるが、近年では、リスクを幅広く捉え、事業に関する様々なリスクを適切に管理していくことが、企業の価値を維持・増大させるために欠かせない対応となっている。

平成 28 年度版中小企業白書では、中小企業は大企業に比べリスク管理体制が不十分と指摘しており、リスク管理体制に関するアンケートによれば、「リスク管理を担当する専門部署がある」は僅か 3.9%（大企業 18.5%）にとどまっている。

そこで中小企業ならではのリスクマネジメントの進め方を整理したい。

最初にリスクの洗い出しを行う。部署毎にメンバーが自由にリスクワードを出し合い、その際は外部環境の変化や過去の類似する事例を振り返り、ロジックツリーを用いて詳細に洗い出す。集まったリスク案を部門間でフェーズを合わせ、全社的にリスク認識を共有していく。

次にリスク評価を行う。集約されたリスクは、損失額（縦軸）×発生確率（横軸）のリスクマトリックスに整理し、次の4つのタイプに分類する。

Aゾーン（発生確率：小 損失額：大） Bゾーン（発生確率：小 損失額：小）

Cゾーン（発生確率：大 損失額：小） Dゾーン（発生確率：大 損失額：大）

また、東日本大震災のような想定を遥かに超えるテールリスク（4つの分類外）も可能な限り盛り込み、自社を取り巻く状況を漏らさずに俯瞰する。

損失額の大きいAゾーンやDゾーンはリスクファイナンス（損失を補てんするための金銭的手当て）で対応し、発生確率の高いCゾーンやDゾーンはリスクコントロール（損失の発生確率を低減させる予防的措置）で対応する。

なお、Bゾーンはリスクを保有または放置しても良い。

中小企業のリスクマネジメント成功の鍵は、①経営者の関与とリスクマネジャーの設置 ②目的の明確化と組織浸透 ③定期的なフォローアップ に尽きる。
(執筆者：Cの会 涌元三裕)

※ JRS 経営情報の中から、次のコンテンツを参考にしてください。

- 中小企業のリスク対策 ①中小企業の経営リスクの種類 (2016-0610)
 - 中小企業のリスク対策 ②リスクマネジメントの進め方 (2016-0611)
 - リスク評価の方法 (2007-1433)
 - リスクマネジメント (2011-0033)
 - リスクマネジメントに生命保険をどう生かすか (0110-0526)
- () 内は情報番号です

なお、お客様にコンテンツを提供される場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。またお探しの情報が不明な場合はご連絡ください。(☎0120-89-0240)